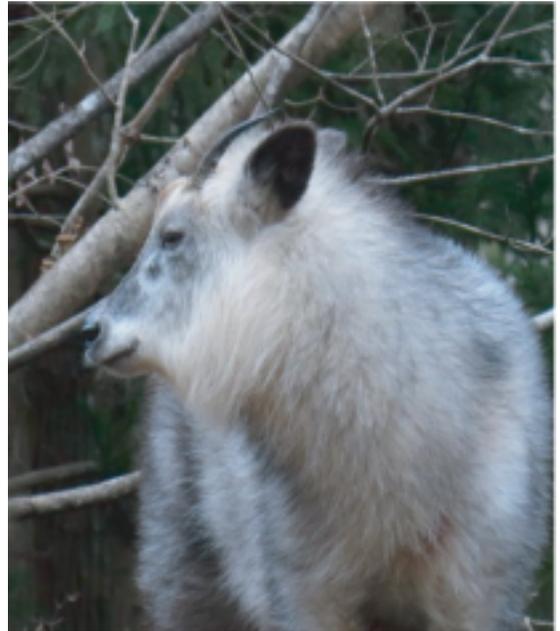


# 森のおくりもの 1月



ニホンカモシカ（ウシ科）



早いもので令和も3年目を迎え、この新しい元号にも違和感は覚えなくなりました。さて、今年の干支は丑ですが、「牛」は、かつては農耕や物資運搬などの労働力として古くから人間の生活に欠かせない身近な動物でした。

この森に生息しているウシ科の動物といえば「ニホンカモシカ」。皆さんご存知かと思いますが、カモシカは「シカ」と名がついているものの、分類上はシカではなく、ウシの仲間です。そんなこともあり、丑年最初の情報誌の表紙はニホンカモシカがいいのでは、と（安易に）思い、出会いを求めてカメラ片手に森をウロチョロ。そんなに都合よく現れるはずもなく、表紙の写真は昨年2月に撮影したものです。

この森で何回もカモシカを目にしていますが、そのほとんどが巡回中での突然の遭遇です。出会い頭も出会いのひとつ。今年もたくさんの出会いを期待したいと思います。本年もよろしくお願い致します。【写真・文 近藤晋也】

## 森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

### 『沈む瀬あれば浮かぶ瀬あり』

紅葉の時期が終わり、落葉樹がすっかり葉を落とし、見通しがいい冬の森の光景に変わったと思ったら、すぐに雪景色へと模様替えでした。忙しく景色が移り変わる様子に年の瀬が押し迫ったことを強く感じました。

年の瀬とは慌ただしい年の暮れのこと、川の流れる勢いを増し急激に早くなる場所の“川の瀬”にたとえています。2020年は、世界中が激流に飲み込まれたように大きく変わってしまい、皆さんも時が経つのが特に早く感じたのではないのでしょうか。

一年の流れを川にたとえたように、人の運命や一生を川の流れに見立てた『沈む瀬あれば浮かぶ瀬あり』という言葉があります。川の瀬は沈んだり浮かんだりとは異なることから、「長い人生のうちには悪いときもあれば良いときもある。悪いことばかりが続くものではない」という意味です。

見通しが見えず閉塞感が漂う世の中で、2021年はどんな年になるのか不安になってしまいますが、「沈む瀬あれば浮かぶ瀬あり」です。その意味に近い歌がありました。秋元康さんが作詞した美空ひばりさんの歌『川の流れのように』です。その一節に「雨に降られてぬかるんだ道でもいつかはまた晴れる日が来るから…」とあります。どんなに辛く苦しいことがあってもいつか必ず素晴らしいことが訪れるよというメッセージを感じます。

新年を迎え、きっといいことがあると気楽に生きていきたいと思います。ちなみに美空ひばりさんは丑年生まれだそうです。【レンジャー：新田隆一】



# 1月の生物情報

## バードテーブルに集まって来た小鳥たち

12月初めからスタートしたバードテーブル。今年は森に食べ物が少ないのか、初めからたくさんの小鳥たちが集まってきました。常連客のシジュウカラ、ヤマガラはもちろん、カシラダカやアオジなどもバードテーブルにやってきています。今年は12月半ばから雪が降り、なお一層賑わいを増しています。



早速ヤマガラがヒマワリの種を食べに来た。



スズメが群れでヒエ・アワを食べている。



今年もヒマワリテーブルは大盛況。あっという間になくなってしまふ。



地面にまいたエサにキジバトがやって来た。



新設したバードテーブル！こちらにもヤマガラが！！



吊るしたバードケーキにはシジュウカラが！



ヒヨドリも忙しそうにエサをついばむ！

【レンジャー：齋 正宏】

# 森の「おとしもの」



## 「何に見える？」

右上の写真、何に見えますか？「イメージがわからない」という方は今月号「森のおくりもの」の表紙を見てください。そしてもう一度、写真見て。ほら！ニホンカモシカに見えてきませんか（笑）

これは葉痕（ようこん）といって、樹木の落葉した痕です。目や鼻に見えるのは水分や養分の通路、顔の上の角のようなものは来春開く葉の入った芽です。この葉痕や冬芽を解説した冬芽図鑑があれば花も葉もない正体不明の樹木の名前を探することができますよ。もちろん名前を知らなくても楽しめるけどね。

二番めの写真から順に時計回りで、「王冠をかぶった王子様（これ定番）」、「謎の宇宙人（頭がケムール人で体がバルタン星人）」、「ジョーカー（怖い映画のやつ）」、「顔（シュールに笑っているけど全身角だらけなので、鬼滅の鬼に違いない）」、「ラジオ体操をする人」、「スナフキン…っぽい人」んん、ちょっと苦しいかも（笑）。

どれも指先くらいの大きさ、だけど表情豊かで個性的に見えておもしろいですよ。

葉のすっかり落ちた雑木林。何もないように見える冬の森ですが、実は春にむけて準備万端です。暖かくして、しっかりコロナの対策をして、冬の観察の森を楽しんでみませんか。

そうそう、拡大して見るのにルーペがあると便利です。  
【レンジャー：木田秀幸】



# 森は糸



# 森は布

森は様々な生き物が互いにつながって森として生きているんですね (\*\_\*)

あんなにいっぱい見られた昆虫たちの姿はほとんど見ることはできません。寒くてえさの少ないこの時期、そもそもちゃんと生活しているのでしょうか。でも、落ち葉の下や木の枝など、よお〜く目を凝らして探してみると、いました、いました、こんなところに！寒さに耐えて必死に生きているんですね (^\_^)



①葉をひっくり返してみたらオオムラサキ（左）とゴマダラチョウ（右）の幼虫。葉に守られて幼虫越冬します。



②常緑のキツアの葉裏にウラギンシジミが休んでいました。成虫のまま飲まず食わずで越冬します。落ちない葉が風や寒さを防いでくれます。

## ③クロアゲハの蛹

クロアゲハは蛹で越冬します。蛹の色は場所によって緑色か薄茶色のどちらかになります。それには表面の凹凸や光のあたる時間など様々な要因によって決まるようです。



④樹皮の間にクヌギカメムシの卵のうががありました。栄養たっぷりのゼリーに包まれています。所々白い突起が出ていますが、卵に空気を取り入れるのでしょうか。卵で越冬します。

⑤さて、コマダラウスバカゲロウの幼虫が隠れていますが見つけられますか。するどい大あごを広げてえさを待っているようです。ウスバカゲロウのような巣はつくらず、地衣類にまみれて過ごします。5月から8月にかけて成虫になるようです。幼虫で越冬します。

昆虫は、卵、幼虫、蛹、成虫など、その姿を変えて厳しい冬を乗り越えているんですね。地面に大量に積もった落ち葉は、昆虫のねぐらとしての役目もあります。常緑の葉も樹木を養うだけでなく昆虫の休み場にもなっています。森の生き物は互いに支えあって生きています。 (^\_^)【レンジャー：菅原 幸彦】



# 1月のイベント&お知らせ



## ◆「野鳥のレストラン」好評開催中！（3月末まで）

・えさ台に集まる野鳥を、あたたかい部屋の中から観察できます。野鳥に関するクイズに当たれば、『オリジナル野鳥のしおり』をプレゼント。

## ◆冬の野鳥かんさつとバードケーキづくり

・エサ台にやって来る野鳥の観察とバードケーキ（野鳥のごはん）を作ります。

【日 時】：1月16日（土）10：00～11：30

【定 員】：10名〔先着 電話受付〕

【申込み】：1月6日（水）午前9時から電話で



## ◆真冬の昆虫かんさつ会

・昆虫の冬越しなどの解説を聞きながら散策し、冬の昆虫の生態を観察します。

【日 時】：1月23日（土）10：00～11：30

【定 員】：15名〔先着 電話受付〕

【服 装】：歩きやすく暖かい服装と靴で

【申込み】：1月7日（木）午前9時から電話で

◆新型コロナウイルスの感染拡大や天候の急変等でイベント中止・短縮の場合があります。

毎週  
日曜は

## 『ガイドウォーク』の日！

1月は10、17、24、31日です。

開催時間：10:00～11:30

12月～3月のガイドウォークは  
午前だけの開催です。

申し込み不要。時間までセンター前にお集まり下さい。

## 1月の休館日

年始1～4日、

12日（火）、18日（月）、  
25日（月）

※月曜日が祝祭日の  
場合は火曜日が休館  
です。



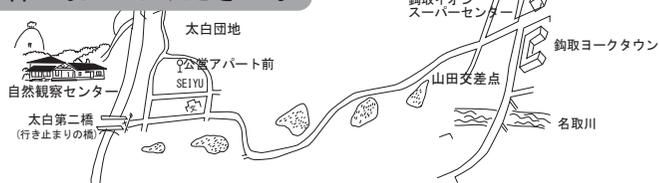
### 宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
  - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
  - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【先行】①②③ 「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗車  
（※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」）  
いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩15分

### お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。  
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

### ♪森へおいでください♪



自然観察の森の最新情報、  
「森のおくりもの」バックナンバーは  
Webで！

2021年1月号（毎月1回5日発行）

発行：（公財）仙台市公園緑地協会

編集：仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター  
〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL：022-244-6115 FAX：022-244-6133

「社のひろば」URL：<http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>